

船舶事故調査報告書

平成29年7月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	火災
発生日時	平成28年10月13日 20時57分ごろ
発生場所	神奈川県横須賀市横須賀港北北東方沖 横須賀港東北防波堤東灯台から真方位065° 2.0海里付近 (概位 北緯35° 20.0′ 東経139° 42.7′)
事故の概要	旅客フェリーフェリーびざんは、南進中、火災が発生した。
事故調査の経過	平成28年10月14日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	旅客フェリー フェリーびざん、12,636トン 142528、オーシャントランス株式会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
乗組員等に関する情報	機関長、一級（機関）
負傷者	なし
損傷	船尾係船機の係船索に焼損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風速 約6m/s、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか19人が乗り組み、旅客36人を乗せ、車両270台を積載し、徳島県徳島市徳島小松島港に向けて横須賀港北北東方沖を南進中、平成28年10月13日20時57分ごろ船尾方に火の粉が飛散していると付近を航行中の船舶からVHF無線電話で連絡を受けた。</p> <p>在橋中であった船長は、防火部署を発令し、航海当直についていた航海士及び甲板手に船尾部付近に向かうよう指示した。</p> <p>本船は、航海士、甲板部員及び事務部員が、船尾係船機に巻かれた係船索に炎を認め、持運び式消火器等を用いて消火作業を行い、21時03分ごろ鎮火した。</p> <p>本船は、主機の排気の廃熱を回収する排ガスエコノマイザが機関室の排気ケーシング上段付近に設置されており、本事故時には運転中であつた。</p> <p>機関長は、約1か月前に排ガスエコノマイザの加熱器管群を点検した際、^{すす}煤の堆積が多く、煤がはがれて火の粉となって飛散し、火災が発生した事例があつたので、約24時間ごとに行っていた煤を吹き払うためのストブローの実施頻度を増やす必要があつたと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、横須賀港北北東方沖を南進中、船尾係船機の係船索から出火したものと考えられる。

	<p>本船は、排ガスエコノマイザの加熱器管群に付着堆積した煤が、排気と共に煙突から火の粉となって噴出し、船尾係船機の係船索に落下して出火した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、横須賀港北北東方を南進中、船尾係船機の係船索から出火したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 排ガスエコノマイザは、適宜、スートブローを実施して加熱器管群に堆積する煤を少なくすること。